

取組み報告書

令和7年度 福山市介護職員等負担軽減支援アドバイザー派遣事業

【社会福祉法人常新会 ショートステイぬくもり】



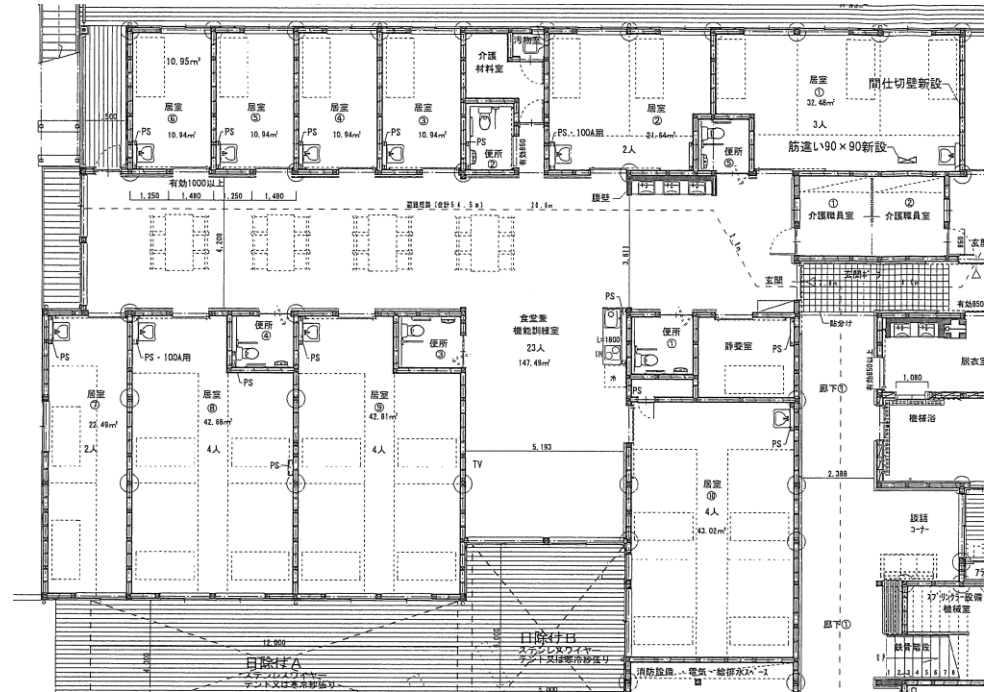
一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック

施設の概要



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック

施設の概要



施設名	社会福祉法人常新会 ショートステイぬくもり
施設種別	短期入所生活介護
定員	23名
開設日	2014年6月
所在地	福山市新涯町6丁目11番21号

取組みの流れ



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック

取組みの流れ

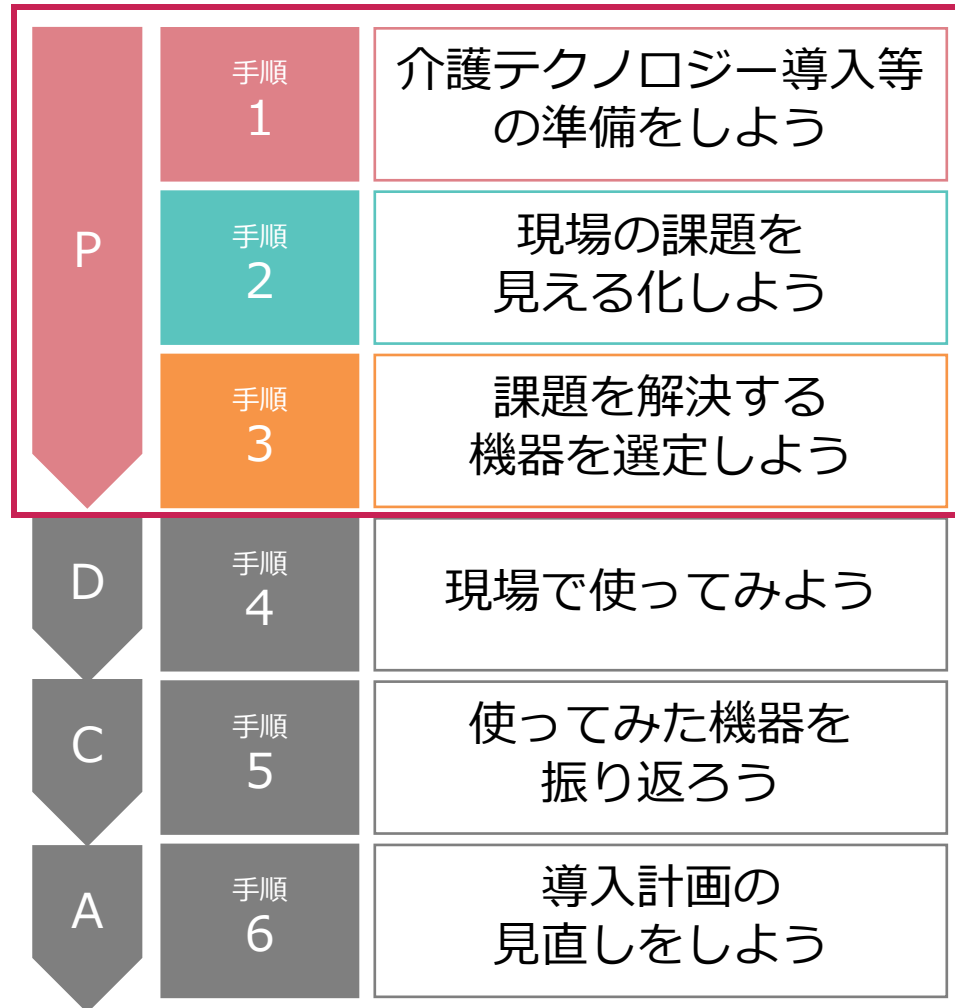
取組の流れ

具体的な取組み内容

P	手順 1	介護テクノロジー導入等の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none">• 同年4月に立ち上げた委員会での活動について振り返り、再検証。• すでに試用していた機器の特徴や現場からの声を踏まえ、機器の選定を深化させる。（別の機器導入の可能性を検討）• 今年度の機器導入を踏まえ、職員との対話を加速させる。• 機器の導入検討フェーズを現場職員と共に実行することで、「我が事」意識を持ってもらうよう働きかける。	7月 中旬
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう		
	手順 3	課題を解決する 機器を選定しよう		
D	手順 4	現場で使ってみよう	<ul style="list-style-type: none">• 抽出した課題解決に資する別の機器を取り寄せ、1週間程度、現場で試用する。	7月 下旬
C	手順 5	使ってみた機器を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none">• 実際に機器を使用した職員からのヒアリング等を実施し、試用した機器の評価を行う。	8月 上旬
A	手順 6	導入計画の 見直しをしよう	<ul style="list-style-type: none">• 今まで試用した機器の再評価、検証を行い、導入機器の確定を行う。	

取組みの結果

取組の流れ



手順1 介護テクノロジー導入等の準備をしよう

実施内容

- 理事長、施設長、現場責任者、現場担当者を交えたプロジェクトチームを設置。
- 現在介護業界での「生産性向上の取組み」に係る情報を共有。
- 目標とする「施設像」について協議し、共有する。

職種	人数
施設長	1名
所長	1名
介護職	1名
看護職	1名
介護支援専門員	1名
栄養士	1名



手順2 現場の課題を見える化しよう

実施内容

- 同年4月に設置した生産性向上委員会にて、参画する職員から現状ヒアリング。
- 2月に一度のペースで開催し、現場課題の何から取り組むべきか確定させる。

見える化された課題

- テクノロジーは何も入っておらず、開設時から変わらずアナログで業務を行っている。
- 記録についても紙に頼っている。作業効率は良くない。
- 転倒を未然に防ぎたい。（現在フットセンサーマット等の設置もない）
- 人海戦術のみでは今後立ち行かなくなる。テクノロジーの導入を視野に入れたほうが良い。
- 職員の夜間業務の負担が大きい。何とか軽減させたい。

手順3 課題を解決する機器を選定しよう

今回選んだ解決したい課題

- ・ 巡視業務など、職員の夜間業務の負担軽減を最優先に行う。

その理由・背景

- ・ 他の施設がテクノロジーを導入して行う夜間業務と自施設が行う夜間業務を比較し、違いが顕著であったため。また、職員の希望とそれが合致していたため。

課題に対する現状

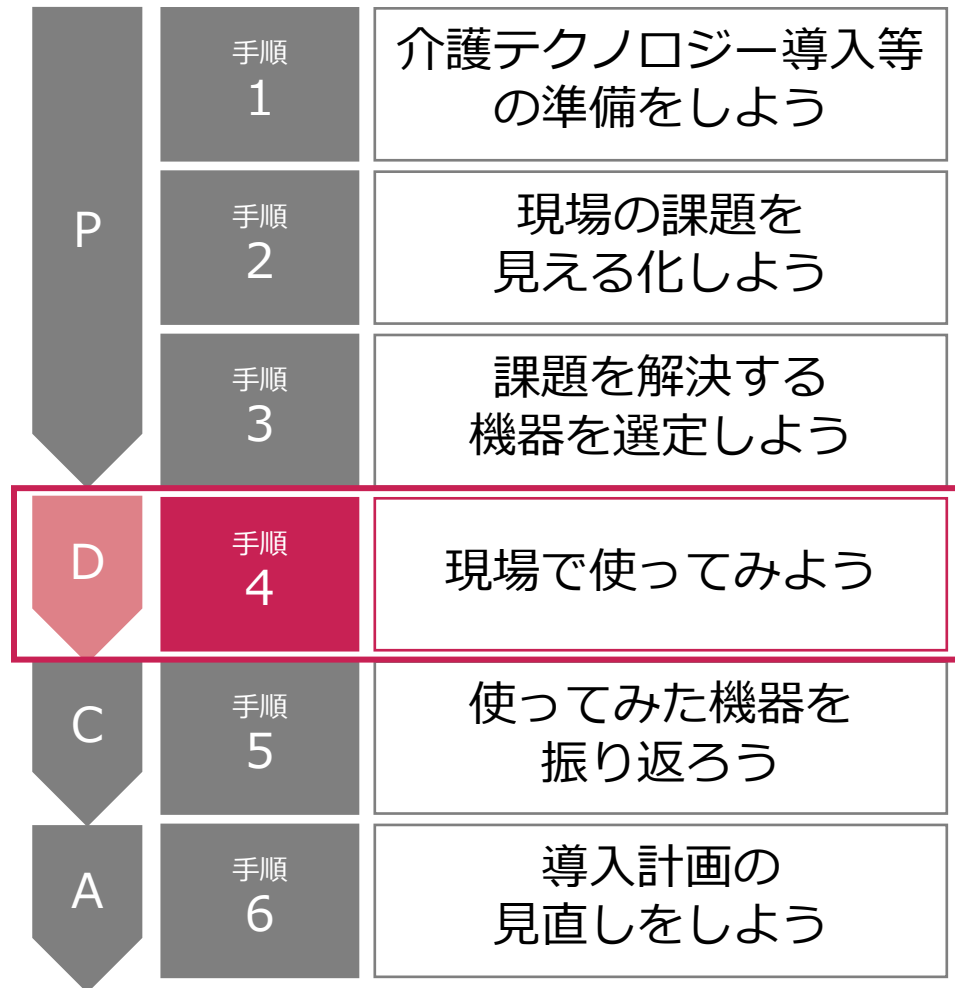
- ・ 居室の状況が把握できず、定期巡視を実施している。また状況が把握できないため、ナースコールが押下された際等、優先順位をつけて対応することができない。

解決した後の姿（目標）

- ・ 居室の状況が把握できるようになることで、ご利用者さまを覚醒させるような無用な訪室が減る。また、機器を利用した効率的な業務オペレーションを実施することで、職員が休息する時間を確保できる。

取組みの結果

取組の流れ

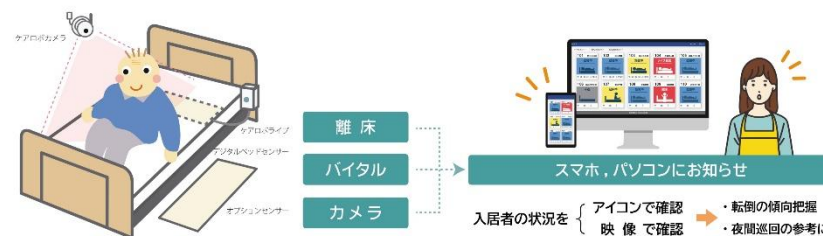
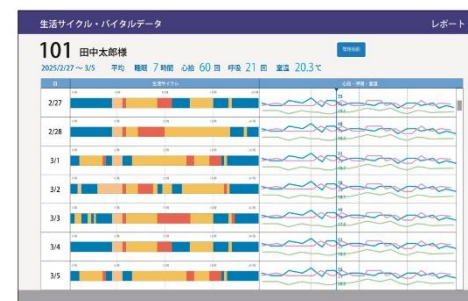


手順4 現場で使ってみよう

実施内容

- 選定を深化させるため、今まで試用した機器に加え、別のセンサーを試用する。

体験機器（e-ライブ） URL : <https://www.technosjapan.jp/product/etc/4085/>



取組みの結果

取組の流れ



手順5 使ってみた機器を振り返ろう

使用した結果（確認方法）

- 実際に試用した職員からのヒアリングを実施し、機器の評価を行う。

集まった現場の声

- アラートがなった際の端末で確認できる画像が、モノクロ（シルエット）ではなくはっきりと映るため、安心。
- これなら何かあった際も、ご家族の方へエビデンスをもって説明することができる。
- 通知もとても早く、機器としては十分な機能があると思う。

取組みの結果

取組の流れ

P	手順 1	介護テクノロジー導入等の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	課題を解決する 機器を選定しよう
D	手順 4	現場で使ってみよう
C	手順 5	使ってみた機器を 振り返ろう
A	手順 6	導入計画の 見直しをしよう

手順6 導入計画の見直しをしよう

振り返りを踏まえた今後の活動

- 試用した機器の性能は申し分ないが、生産性向上委員会にて協議を行い、別の機器を導入することに方針を決定する。
- 生産性向上に係るモデル事業所の取組みをヒントに本活動を開始しており、8/6に見学に行き、当該施設のオペレーションを参照することを決定した。

全体の総括（導入チームから）

- 夜勤の負担軽減、転倒防止のためにどんな機器を導入すればよいか悩んでいたところ、アドバイザー派遣事業のを知り、すぐに応募させていただいた。
- アドバイザーより、私たちの事業所に合った提案を分かりやすく説明して下さり、やってみようと思った。また、ICTの導入の目的はケアの質の向上であることの再認識ができ、今後のモチベーションにもつながった。
- 興味のある機器を取り入れている施設に見学をお願いし、実際に使用している状況を見ることができたことが大きかった。
- wi-fiの環境を整えておくことで、後に機器の拡張をするときに便利だと感じた。
- ICT化を進めるためには職員に丁寧に伝えることが重要であると感じた。

まとめ

全体を通してのコメント（アドバイザーより）

この度は、令和7年度福山市介護職員等負担軽減アドバイザー派遣事業にエントリーいただき、誠にありがとうございました。

今まではテクノロジーの利活用に対して懐疑的であったかと存じますが、その有用性を見出していただき、理事長様のお声かけをきっかけとして、現場を巻き込んだお取組みをいただいている事業所様と認識しています。

面談の際にもお話をいただきました通り、テクノロジーは職員の方に楽をさせるためだけのものではありません。いかにして「ケアの質」を高めていくかが、この取組みの本質になります。

機器の導入がなされれば、定着・活用に向けた取組みが始まります。

うまくいかないこともあるかと思いますが、委員会メンバーの方を中心に、PDCAサイクルを回していただき、本質を違えず、目標に向かってお取組みいただけますようお願いいたします。



一般社団法人
日本福祉用具供給協会
中国支部 広島県ブロック